

# 山紫海碧

東村立有銘幼小中学校

幼児 2名 児童 30名 生徒 11名

♪ 山紫に海碧く ♪

発行 校長・園長 古謝治

とわ  
思いは永遠に



ありがとう  
有銘中学校

東村立有銘中学校 1948年(昭和23年4月)～2017年(平成29年3月) 卒業生総数1245名

◆ ◆ ◆ 東村立有銘中学校閉校式式辞 ◆ ◆ ◆

卒業式まであと一ヶ月となったこの時期。別れの季節になりましたが、有銘区・慶佐次区にとりまして、今年のこの時期は、とりわけ寂しい季節になりました。お手元のパンフレットにありますように、東村役場のみなさまや議員のみなさま、地域住民のみなさまは、何度も何度も会議や説明会・懇談会を持ち、中学校閉校・統合について話し合いを重ねてきました。

長い長い歴史を持つ学校、あたりまえのように地域の中に根付いている学校の歴史を閉じるという判断には、大いに悩みに悩み、結論をだすことは、まさに苦渋の決断だったことでしょう。そして、今日、とうとう69年の歴史を持つ有銘中学校の閉校式を迎えることになりました。しかし、私は、有銘中学校の閉校はさみしいことではありますが、悲しいこととはとらえたくありません。心から残念に思いますが、人口の減少、少子・高齢化という日本社会の大きな変化の中、全国で年間三百数十の小中学校が閉校していることを聞けば、やむを得ないことと思うしかありません。有銘中学校の閉校は、私たち大人が、子どもたちの教育環境を整えてあげたい、適正な学級編成の中で学習させたい、と考えて判断したことです。新生東中学校に向かって夢と希望を持ち、前向きに進んでいく子どもたちを、私たち大人は、気持ちを切り替え、心から応援していきましょう。有銘中学校最後となったこの一年。中学生11名は、

～ PERFECT JUNIOR HIGH SCHOOL 2016 ARUME THE FINAL YEAR ～

を生徒会のスローガンに掲げ、有銘小中学校のよき先輩として、少ない人数にも関わらず、実に多くのことに前向きに取り組み、学校生活をリードしてくれました。ここで教育活動の内容を申し上げる時間はありませんが、有銘小中学校では、代々、頼もしい中学生がいたからこそ、生徒と教師が一丸となって、充実した教育活動を展開することができたと、自信を持って言い切れることが誇りです。

あいさつの途中ですが、ここで二人のお方を紹介したいと思います。こちらは、有銘中学校第1期生 卒業番号 第2号の上原朝菜さんです。今日は、浦添市から駆けつけてきてくださいました。そしてこちらは、来月11日に本校を卒業します。梅木恵華さんです。有銘中学校第69期生 有銘中学校最後の卒業番号 第1245号 となります。

69年の年月の中で、有銘中学校は、1245名の素晴らしい人材を輩出し、地域・文化の拠点として輝かしい歴史と伝統を築いてきました。卒業生を代表して前に出てくださいましたお二人をはじめ、1245名の卒業生全員に大きな拍手をお願いします。

本日はご多用の中、伊集盛久村長、金城紀昭副村長、比嘉一之教育長をはじめ、歴代PTA会長様、有銘区・慶佐次区区长様、歴代校長先生方、多数のご来賓のみなさまのご臨席を賜りますことに心より深く感謝申し上げます。

また、地域のみなさま、保護者のみなさま、遠方よりお越しのみなさま、旧職員のみなさま方には、たくさんのご出席をいただき、誠にありがとうございます。大変寂しい日を迎えましたが、今日は「有銘中学校に感謝し、思い出を語る会」として、式典を開催していますので、お時間の許す限り、ゆっくり語り合ってください。

最後になりましたが、有銘中学校の長き歩みに関わったすべての方々へ深く感謝申し上げますとともに、有銘校区の発展と、校区のみなさま、教育に携わった数多くのみなさま、卒業生のみなさまのご多幸とご発展を心より祈念し、私のあいさつとさせていただきます。

平成29年2月12日 東村立有銘小中学校 校長 古謝治



# 母校に感謝 閉校惜しむ

【東】村内3中学校の統合に伴う高江中の閉校式が4日、有銘中の閉校式典が12日、それぞれの学校で開かれた。在校生や卒業生、地域の人々が、母校への感謝を語り合った。

## 東村高江中と有銘中



閉校の記念碑を除幕した在校生11人。12日、有銘中

## 4月から 東中統合 生徒ら「誇り胸に歩む」

創立69年の有銘中は、ピークの1951年度には190人いた生徒も、現在は11人になった。式典で古謝治校長は、1期生で卒業番号2号の上原朝栄さん(83)＝浦添市＝と最後の卒業番号1245号になる梅木偲華さん(3年)を壇上に招いて紹介。「長き歩みに関わった全ての人に感謝する」と式辞を述べた。在校生を代表し、田場尚耶さん(2年)があいさつ。地域全体でつくる運動会などの行事を振り返り、「有銘校で学んだこと、成長したことを誇りに思う。ありがとう有銘校」と話した。

# 有銘中 69年の歴史に幕

## 東村「忘れない」感謝の閉校式

【東】東村立有銘中学校で12日、閉校式が行われた。1948年から69年間続いた歴史に幕が下ろされた。在校生や卒業生、地元住民や村関係者ら約230人が出席、全員で校歌を斉唱するなどして閉校を惜しんだ。有銘中学校は4月に東中学校と高江中学校と3校統合され、新たに東中学校として規模を大きくして歩み始める。

## 3校統合「大人も応援を」

東村内の中学校は3校とも小中併置校だが、中学校のみが統合される。有銘中は本年度卒業生を含め、これまで1245人が巣立った。生徒を代表して田場尚耶さん(2年)は、幼小中の子どもたちだけでなく地域の人々とつくり上げた学校行事の思い出を振り返りながら「有銘校を忘れない」とあいさつ。最後はマイクを通さず大きな



母校の様子や友人らが写った昔の写真を楽しく眺める卒業生ら。12日、東村立有銘中学校



「あ」田場尚耶さん(2年)が歴代の卒業生を代表して紹介され、出席者は有銘中学校の歴史を改めて確認した。会場には有銘中での日々の写真やアルバムが六つの会場で展示された。

声で「ありがとう、有銘校」と心を込め、大きな拍手を誘った。古謝治校長は式辞で「閉校は寂しいが」と前置きした上で「悲しいことと捉えたくない。子どもたちの教育環境を整えてあげたい」という判断の結果だ。前向きに進んでいく子どもたちを大人たちで応援していきたい」と述べた。式では、1期生の上原朝栄さん(83)＝浦添市＝と69期生の梅木偲華さん(3年)が歴代の卒業生を代表して紹介され、出席者は有銘中学校の歴史を改めて確認した。会場には有銘中での日々の写真やアルバムが六つの会場で展示された。50期生の仲嶺奈月さん(34)は大学卒業後、教員としての歩みを母校の有銘中で踏み出した。教員を志したきっかけも中学時代の先生に憧れたからだ。運動会で小旗を持つて踊る「校歌ダンス」が思い出で、教育実習や勤務期間も合わせて11年間踊ったと言いつつ「他の誰よりも踊っていると思う。校歌が鳴り出せば今も踊れるはず」と楽しそうに話した。